

地域包括医療実習Ⅳ

科目責任者：橋本 充代（教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門）

I. 前 文

地域医療において救急医療の重要性は高まっている。地域において救急隊による傷病者の搬送と医療機関との連携が円滑に行われなければ、患者の救命は難しくなる。急患が病院に到着するまでの医療をプレホスピタルケアと呼ぶ。本実習は、地域における救急医療の今後解決すべき課題を考えた上で、プレホスピタルケアの第一線機関である消防署において、心肺蘇生を含む一次救命処置を学び、救急車同乗実習を通じて救急医療の現状を知るための学習をする。さらに、大学病院の救命救急センター内でも実習を行い、三次救急医療の実際を学ぶ。

なお、本実習は自由選択科目であるが、地域枠入学者は本実習の履修は必須である。

II. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

III. 担当教員

教授	山内 かつ代	(医学教育学)
教授	和氣 晃司	(救急・集中治療医学)
准教授	橋本 充代	(教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門)
講師	金子 堅太郎	(教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門)
講師	菱沼 秀一	(看護学部 成人看護学(急性期))
助教	寶住 肇	(救急・集中治療医学)
学内指導者	大学病院救命救急センター	医師・職員
学外指導者	石橋地区消防組合	職員
	栃木市消防本部	職員

IV. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	内 容	担当者	形 式
1	5	12	火	7	オリエンテーション	地域医療教育部門教員	講義
2	5	13	水	6-7	ドクターヘリ・DMATの役割について	看護学部 菱沼 秀一	講義
3	5	25	月	6-7	講 話 救急医療の現状と課題に関するグループワーク	壬生消防署救急救命士 地域医療教育部門教員	グループ ワーク
4	6	15	月	6	直前オリエンテーション	地域医療教育部門教員	講義
	6	27	土	1-3	普通救命講習会 施設見学	石橋消防署職員 地域医療教育部門教員	実習
6	7-8			終日	救命救急センター実習 または 救急車同乗実習	救急・集中治療医学教員 各消防署職員	実習
7	9	11	金	4-6	救急医療実習報告会	地域医療教育部門教員	プレゼン テーション
8	11	7	土	1-3	地域包括医療セミナー (1~4年合同)	地域医療教育部門教員	グループ ワーク

7~8月中のうちの2日間で、救命救急センター実習または救急車同乗実習を行い、残りは予備日となる。なお、24時間の救急車同乗実習を受ける学生は救命救急センターでの実習を免除する。

上記以外の各自治体のキャリア形成卒前支援プランに基づくイベントには、対象学生は原則参加とする。

V. 学修の到達目標

- 1) 地域における救急医療の現状と課題を説明できる。
- 2) ドクターヘリの機能と役割について理解する。
- 3) 災害派遣医療チーム（DMAT）の機能と役割について理解する。
- 4) 普通救命講習（BLS）を受講し、心肺蘇生とAEDを実践できる。
- 5) 救急車による救急医療を体験し、その現状と役割を説明できる。
- 6) 三次救急医療機関の現状と役割を説明できる。
- 7) 救急医療の現場での多職種連携、チーム医療について説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

消防署の実習担当者による実習中の評価（45%）、実習記録（5%）、実習レポート（45%）、および実習報告会（5%）等から総合的に評価する。本カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち、自らすすんで実習を行った場合、自己申告することにより評価に反映される。

VII. 使用する教材・資料など

- ・地域包括医療実習Ⅳテキスト
- ・栃木県傷病者搬送・受入実施規準ハンドブック 令和4年度改訂版 (https://www.pref.tochigi.lg.jp/102/system/honchou/honchou/documents/r04handbook_hp.pdf)
- その他、必要に応じてその都度紹介する。

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：橋本充代（commed@dokkyomed.ac.jp／直通 0282-87-2072／内線2111）が窓口になり対応する。来室は、原則として平日のオフィスアワー（12：20～17：00）とする。

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：各回の前に、LMSで配信する予習用資料、テキストの該当部分を読んてくること（30分）。

事後学習：実習内容を振り返り、不明な点などを調べておくこと（30分）。

X. コアカリ記号・番号

PR-01： 信頼

PR-02： 思いやり

PS-03-05：救急・集中治療

IP-01-02：職種間コミュニケーション

IP-02-04：他職種の理解

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

実習レポートを添削の上、返却する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

四
学
年